

琵琶湖の水位低下等に関する現状および今後の対応について(報告)

琵琶湖の現状 (令和5年11月22日午前6時 時点)

- 水位 : B.S.L. - 62cm ※平年値 B.S.L. - 37cm
- 降水量 : 9月の琵琶湖流域平均降水量109mm ※平年値 204mm
(累計) 10月の琵琶湖流域平均降水量107mm ※平年値 142mm
11月の琵琶湖流域平均降水量 81mm ※平年値 98mm
↑11/1~21 累計

これまでの経緯と今後の対応 ※水位はおおよその目安

- B.S.L. - 50cm以下 : 水位低下による影響調査開始(10月25日実施)
- B.S.L. - 60cm以下 : 水位低下抑制のための対応を国に要望(11月14日)
- B.S.L. - 65cm以下 : 水位低下連絡調整会議設置(議長:土木交通部長)
- B.S.L. - 75cm以下 : 渇水対策本部設置(本部長:副知事)
- B.S.L. - 90cm程度 : 国主催の琵琶湖・淀川渇水対策会議において
取水制限等を検討

秋から冬にかけての水位低下により想定される影響

- 社会面 : 船舶の航行障害、港湾施設の機能障害、取水制限 等
 - 環境面 : 水草やゴミ等による景観の悪化、水生生物の生息環境の悪化 等
- ※春先まで水位が回復しない場合、魚類の産卵への影響が懸念される

(参考)

○水位低下連絡調整会議

構成:土木交通部長を議長とし、担当課長等 43 名で構成

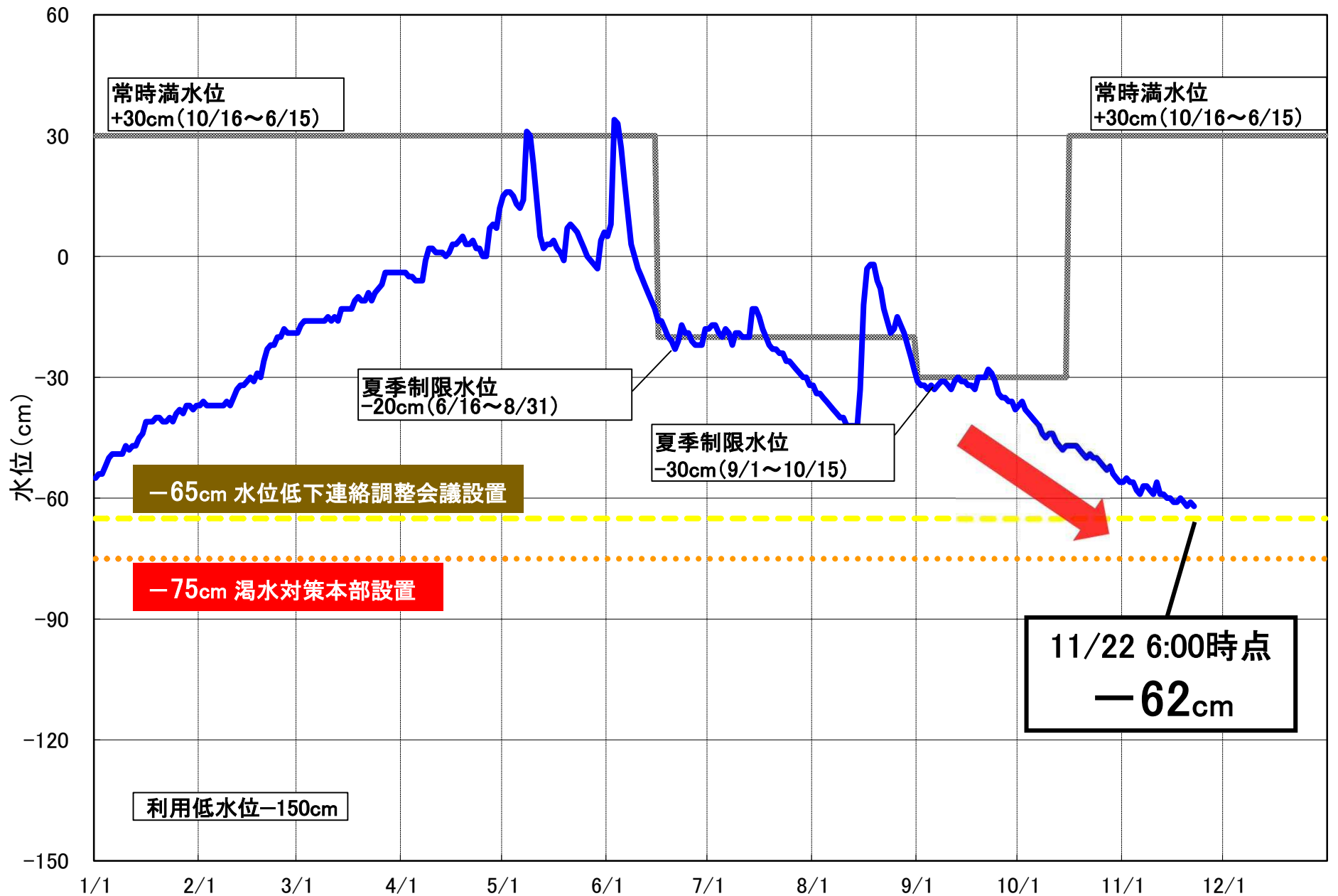
役割:水位低下による諸影響の状況調査を開始し、情報収集に努める

○渇水対策本部

構成:土木交通部を担当する副知事を本部長とし、本部員として担当部長等 12 名、専門部員として担当課長等 36 名で構成

役割:水位低下による諸影響の状況調査を引き続き実施するとともに、さらに綿密な情報収集に努め、国・水資源機構へ早急な対応を求めるべき事項や県・市町等で対応が必要となる事項等を取りまとめ、迅速かつ機動的な活動を展開する

琵琶湖水位の変化(2023年)



近年の渇水状況

年度	最低水位	取水制限実績		
		第1次	第2次	第3次
平成6年度 (渇水対策本部設置)	−123cm (H6.9.15) (過去最低水位)	−94cm ○	−108cm ○	−116cm ○
平成7年度 (渇水対策本部設置)	−94cm (H7.12.23、24)	—	—	—
平成9年度 (水位低下 連絡調整会議設置)	−69cm (H9.11.14)	—	—	—
平成11年度 (水位低下 連絡調整会議設置)	−68cm (H12.1.9)	—	—	—
平成12年度 (渇水対策本部設置)	−97cm (H12.9.10)	−95cm ○	—	—
平成14年度 (渇水対策本部設置)	−99cm (H14.10.29~11.1)	−94cm ○	—	—
平成17年度 (渇水対策本部設置)	−78cm (H17.12.5)	—	—	—
平成18年度 (水位低下 連絡調整会議設置)	−66cm (H18.11.19)	—	—	—
平成19年度 (水位低下 連絡調整会議設置)	−65cm (H19.12.4)	—	—	—
令和3年度 (水位低下 連絡調整会議設置)	−69cm (R3.11.27)	—	—	—